

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第1号を送付します。

平成23年度病害虫発生予察特殊報第1号

1. 害虫名 コミドリチビトピカスカメ(*Campylomma chinense* Schuh)

2. 発生作物 シシトウ・ピーマン(促成栽培)

3. 発生経過

平成23年1月上旬、高知県中央部の施設栽培シシトウ2圃場において奇形果が発生し、さらに生長点部分が叢生化(脇芽が異常に多く発生し、ほうき状になる症状)し、発蕾しない症状が認められた。被害株に体長2~3mm程度で全体が淡緑色を呈したカスカカメシ成虫の寄生が確認されたことから、徳島県立博物館の山田量崇(ヤマダ カシカ)博士に同定を依頼したところ、コミドリチビトピカスカメと同定された。

本種は、アザミウマ類、コナジラミ類等を捕食することが知られているが、食植性の性質も合わせ持つことから、本症状は本種がシシトウを吸汁することが原因であると考えられた。なお、シシトウでの被害は本県が初めてで、他県での被害報告はない。

4. 形態等

大きさや色彩には変異があるが、成虫の体長は概ね2~3mmで、体色は全般的に淡緑色であるがかなり茶褐色化した個体も見られる(写真1)。本種にはいくつかの酷似種があるが、雄の生殖節左側面に指様の突起がある(写真2)。孵化直後の幼虫は黄白色であるが、その後緑色が強くなる(写真3)。西日本では最も一般的に見られるカスカカメの一つで、キク科、マメ科の雑草、アカメガシワの花等、多種多様な植物上で生活し、アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、アブラムシ類等を捕食する。県内では秋期のセイトカアワダチソウでよく見られる。

5. 被害状況

加害を受けた蕾は奇形花となり、裂果、舌出し果等の奇形果が発生する(写真4)。さらに生長点部が加害されると叢生化し、花芽が形成されない(写真5)。症状は本種を防除した後も2ヵ月以上の長期間に渡って発生するため、著しく減収する。農業技術センター内で、ピーマンに本種を接種(40頭/m²)したところ、シシトウと同様の奇形花と奇形果の発生を確認した。

6. 防除対策

- 1) 本種に対して登録された農薬はないので、野外からの侵入を防ぐために、ハウス開口部へ防虫ネットを被覆するとともに、発生源となる圃場周辺の雑草の除去を行う。
- 2) その他の防除対策等については、下記まで問い合わせください。



写真 1 コドリチビトピカスミカメ成虫



写真 2 雄成虫の生殖節左側面の指様突起



写真 3 コドリチビトピカスミカメ幼虫



写真 4 被害果



写真 5 脇芽が異常に多く発生しほうき状になった生長点部